

リスク管理型の水資源開発基本計画における需要推計例 ～吉野川水系を例に～

第9回利根川・荒川部会(R1.7.4)の資料より編集

令和2年5月26日

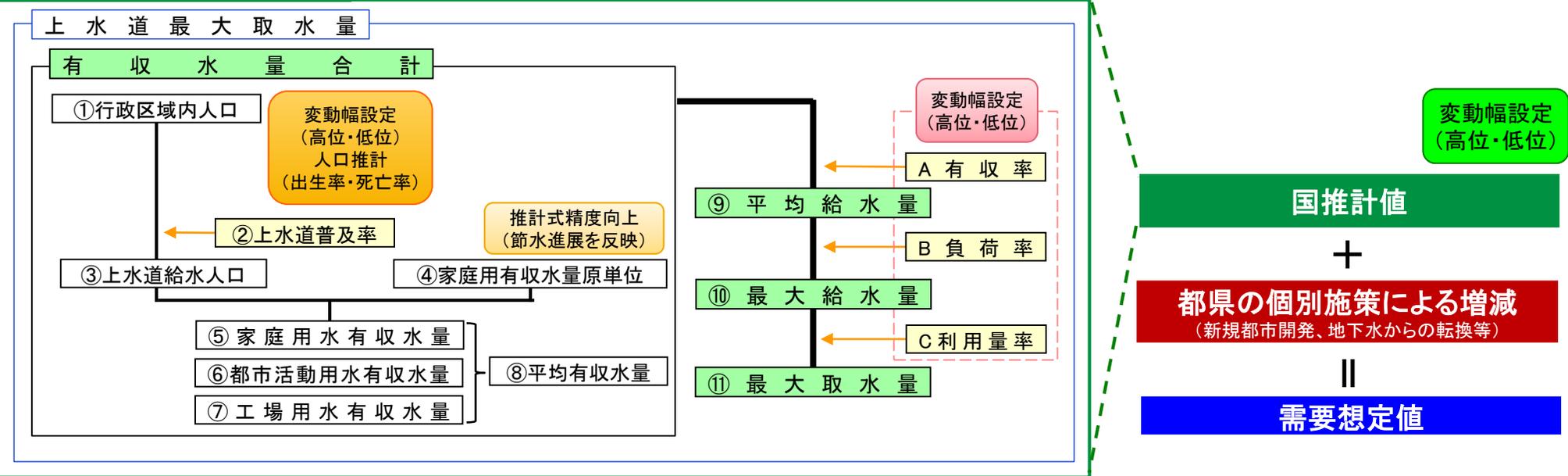
国土交通省 水管理・国土保全局 水資源部

次期計画の検討(1) 需要の見直し

～都市用水(水道用水・工業用水)の需要推計方法の概要(水道用水を例に)～

- 国が一律の考え方で推計した需要に、各都県の個別施策により発生する需要を加えたものをフルプランでの需要想定値と設定
- 国の推計では、「社会情勢等の動向」、及び「水供給の過程」による不確定要素を考慮

水道用水需要想定



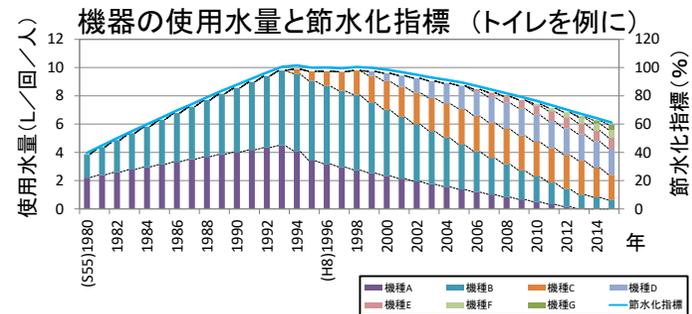
(1) 需要の見直し

○生活習慣の変化、工業出荷額と補給水量の連動性を考慮し、将来水需要予測の精度を向上

吉野川水系での例

推計精度の向上(水道用水)

家庭用水原単位の推計において、節水機器の普及・高性能化に伴う家庭用使用量の変化や、高齢化など世帯構造や生活習慣の変化を反映した。



(1) 需要の見通し

- 「社会情勢等の動向やその不確定要素」、「水供給の過程での不確定要素」を考慮し、おおむね10年後の水需要を想定
- 各種の変動要因によって生じる「予測の変動幅」(高位値と低位値)を予め考慮

吉野川水系での例

社会経済情勢等の不確定要素

水道用水に影響する「人口」及び、主として工業用水に影響する「**経済成長**」を設定



出典: 中長期の経済財政に関する試算 内閣府
(平成 30年7月9日 経済財政諮問会議提出)

◆成長実現ケース:

政策効果が過去の実績も踏まえたペースで発現する姿

◆ベースラインケース:

経済が足元の潜在成長率並みで将来にわたって推移する姿

上記2ケースに、

- ◆**地域経済傾向ケース**(各県の製造品出荷額の実績値を基に時系列傾向分析により予測)を加えた、**3ケースを設定**